千葉歴史の散歩道

千葉県の大型貝塚

教育振興部文化財課埋蔵文化財班・主任上席文化財主事　矢本（やもと）　節朗（せつお）

縄文時代の貝塚は，全国で総数2,410か所あり，関東地方に約６割（1361か所），その内千葉県に約３割（644か所）が集中し全国で最も多い遺跡数である（平成24年度文化庁調べ）。貝塚は，魚貝類のゴミを捨てた集積地だけではなく集落の生活と埋葬の場でもあり，貝殻に含まれる炭酸カルシウムにより酸性土壌が中和され，有機質の人骨・獣骨・骨角器等が豊富に出土し貴重な資料となっている。なかでも環状集落（住居跡等が環状に分布する）のまわりに馬蹄形・環状に貝層が分布する貝塚は「大型貝塚」とよばれ千葉県に約100か所あり，全国的にも突出している。

縄文時代の房総半島は，海水準（かいすいじゅん）の変動により縄文海進とよばれる海水面の上昇がおこり，谷伝いに海水が浸入し軟らかな台地を浸食して谷を埋めた。縄文時代前期の海進最盛期（6,000年前頃）には，東京湾では荒川・江戸川低地に沿って，河口から数十km北まで海水が浸入し奥東京湾が形成された。また，銚子付近を湾口として霞ヶ浦，印旛沼と手賀沼を含む現在の利根川低地まで入り込んだ古鬼怒湾と呼ばれる内海が発達した。最盛期から5,500年前頃を境に縄文時代後期（4,000年前頃）まで徐々に海水面は後退し，現在より海水面は１～２ｍ高位で安定した。この小海退（しょうかいたい）によって森林の豊かな栄養素を含んだ土砂が河川を通じて搬出され内湾に流れ込み，奥東京湾では遠浅で広大な干潟，東京湾では河口に干潟が発達した。房総半島の貝塚が発達する時期はまさにこの時期で，縄文時代中期（5,000年前頃）には特に多くの大型貝塚が形成された。中でも，東京湾に面した下総台地の小支谷最奥部の谷頭に集中している。遠浅で広大な内湾干潟の形成により豊富な海産資源が容易に採取でき，居住地の台地から海岸までの往復が容易であったことが立地・環境的に大規模な大型貝塚が発達する要因となったと考えられる。

空から見た加曽利貝塚

千葉市教育委員会提供

大型貝塚の代表例である千葉市の加曽利貝塚は，縄文時代中期の北貝塚と後期の南貝塚の２つの環状貝塚からなり，国の史跡に指定（北貝塚1964年，南貝塚1978年）されている。県内には大型貝塚を主体に11か所の貝塚が国の史跡に指定され保存されている。縄文時代の生活として一般的にイメージされる大規模な環状・馬蹄形貝塚は，実は千葉県の豊かな海産資源と特異な地形，歴史環境により発達した遺跡なのである。

千葉教育　蓮（No.６３８）　平成２８年６月２８日発行
編集・発行　千葉県総合教育センター　（代表）安　藤　久　彦
〒261-0014 千葉市美浜区若葉２－１３　ＴＥＬ０４３－２７６－１２０４
ＵＲＬ　http://www.ice.or.jp/nc
印　刷　所　株式会社白樺写真工芸
〒263-0002 千葉市稲毛区山王町１０２－５　ＴＥＬ０４３－４２３－１１０１